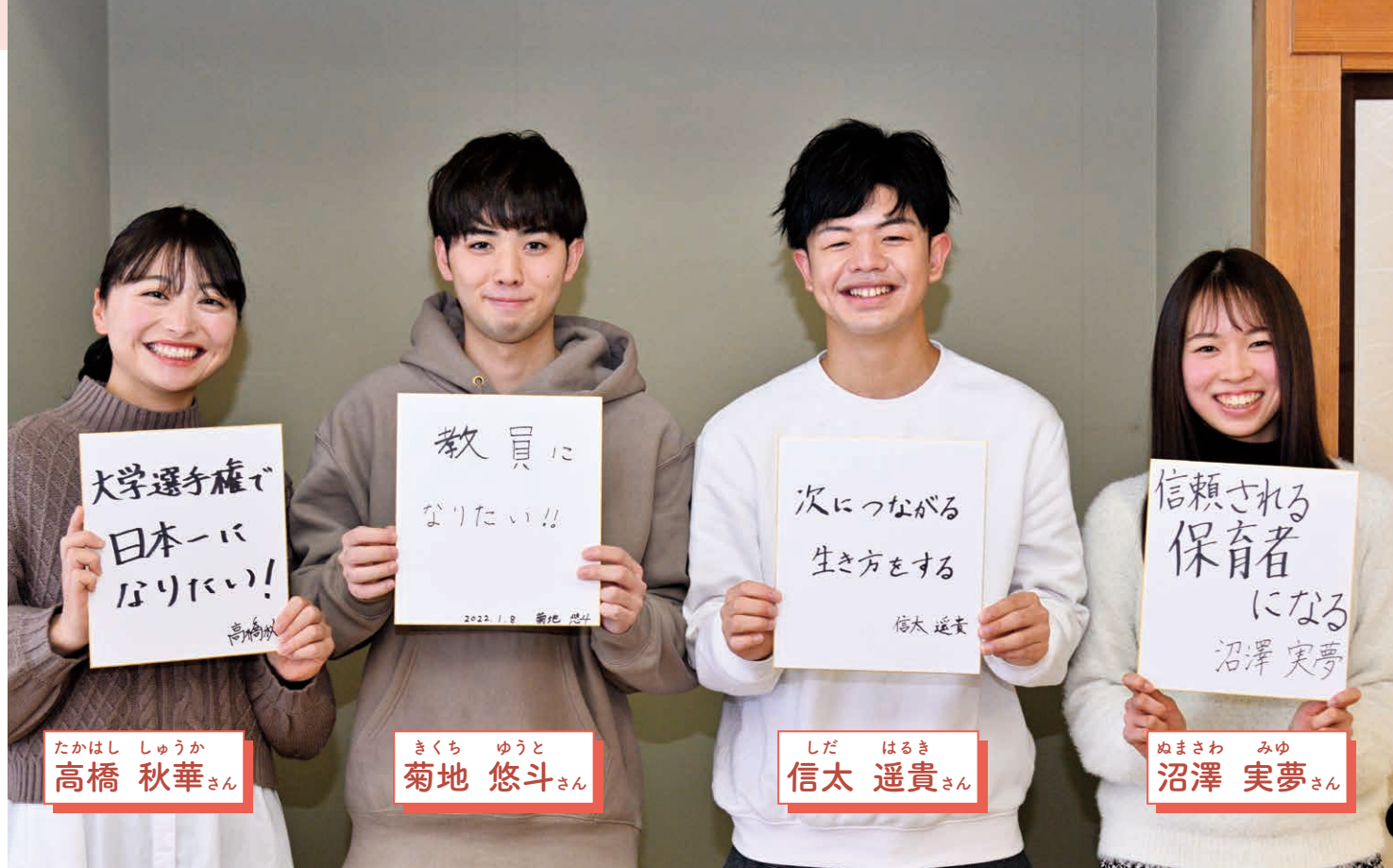




令和4年新春対談

町長×新成人

新成人4名をお招きし、幼いころから過ごして来た利府町のこと、将来の夢を伺いました。



新成人から見た故郷、利府町

町長 成人、おめでとございいます。皆さんは小さいころから利府町で過ごして来たと同っています。そんな故郷利府町に、どんなイメージを持っていますか。また、町が抱える課題は何だと思えますか。

菊地 私が小さいころから持っていた利府町のイメージは、やっぱり特産の梨です。また、町の課題は土地の値段が高いことだと思います。今年、利府町議会のインターンシップに参加し、遠藤議員の元で勉強させていただいたのですが、その際、「利府町は今後、「利府市」を目指すという話を伺いました。市になるための人口増に向けて、土地をどう売っていくかを考える必要があると思えます。



▲菊地 悠斗さん



▲高橋 秋華さん

高橋 私は大学に入ってから寮暮らしをしています。私のこの町の好きなおところは、帰ってきたときにいつまでも変わらない町でいてくれるところです。二十年前と比べ新しい施設や店は増えているとは思いますが、根本的には変わらない町と、私は思います。

沼澤 私はグランディの近くに住んでいます。コンサートやイベント、昨年のオリンピックといったものに気軽に行くことができるのが良い点だと思っています。ただ、遠くからグランディを訪れる方たちからは、「もう少しアクセスが良くなれば」と言われることが多いです。

信太 私は体育施設が充実しているなという印象が強いです。私自身もスポーツをするので、そういう交流が生まれる場があるのは良いと思います。町の課題としては沼澤さんが言っていたようにアクセスの問題があると思います。昨年のダイヤ改正で利府仙台駅間のアクセスは向上しましたが、利府駅に行くまでのアクセスがもっと良くなればな、と思います。

町長 ありがとうございます。それぞれ住み慣れた町に、良い印象をもっているようで良かったです。一方、町の課題として「土地の価格やアクセスの悪さ」が挙がりましたが、他に「もっとこうなったらいいの」というものはありますか。

菊地 現在、ビジネスホテルを建設中と聞きました。今までは、せっかくコンサートやイベントで利府町に来て、終わったらそのまま帰ったり、近隣市町村で泊ったりしていたイメージがあります。ホテルがあるのは良いと思います。



▲沼澤 実夢さん



▲信太 運貴さん

出来ることによって、滞在時間が長くなり、観光も増えると思います。

沼澤 私はカラオケボックスがあればいいのにな、と思っていました。利府町にお住まいの方はもちろん、コンサートとかに來た人たちも楽しめるかな、と。コンサート前とコンサート後に少人数で集まれる場所としても需要があると思えます。

町長 若者ならではの意見で、とても参考になります。ありがとうございます。



※ 新成人の夢、理想

町長 それでは最後に、二十歳の節目を迎えた、新成人の皆さんひとり一人の夢や理想を教えてください。

菊地 「教員になりたい」

中学生の時から「教員になることが私の夢です。今のカリキュラムだと取れる免許も限られてきますが、これから数学の免許も取れるようにチャレンジしたいと思っています。また、自分自身が小中高と野球部に所属していたこともあり、部活動では野球を教えたいと思っています。」

高橋 「大学選手権の日本一になりたい」

私の夢は、小学生から続けているソフトボールの大学選手権で、日本一になることです。大学では全国の都道府県から来た人たちと一緒に練習をしているので、日々刺激を受けながら、切磋琢磨しています。小中高と利府町で続けてきたことの集大成として、必ず日本一を取りたいと思います。

沼澤 「信頼できる保育者になる」

私は将来、幼児教育に携わる仕事に就きたいと考えています。大学では来年から実習も始まるので、現場のたくさんの方から学び、先輩方や仲間との対話をとおして、様々な保育の引き出しを増やしていきたいです。

信太 「次に繋がる生き方をする」

元々私は「教員になりたい」という夢を持っていました。ですが、大学に入り色々学ぶ

上で、自分の夢の根底にあるのは、「後世に残ることをやりたい」ということでした。まだ、明確に何をしたいということが定まっているわけはありませんが、次に繋がる、後世に何か残せるような生き方をしていきたいと思っています。

町長 皆さんが素晴らしい夢を持っているのでうれしくなりました。一步一步、着実に叶えていってほしいなと思います。ただ、途中で、挫折は必ずするものです。皆さんスポーツもやっていて十分に分かるかと思いますが、10打席中10安打できる人はいないんです。あの天才と言われるイチローでさえ3割なんです。あと7打席は失敗しているんです。野球に限らず、1割うまくいけば良い方なんです。あとの9割は失敗か、うまくいかない、思うようにいかないというところ。そんなときに、どう自分でセルフケアして、それを乗り越えていく力を持つか、というのが大切です。高橋さんもソフトボールをやる中でそういう壁にぶつかることもあると思いますが、どうやって乗り越えていますか。

高橋 前までは、打てないときは、ただもがいていただけでした。大学に入ったあとは、「じゃあなぜ打てないのか」「どここの体の使い方がおかしくなっているんだろ」と、「昨日のコンディションと今日のコンディションのどこが違うのか」と一つひとつ考えるようになりました。

町長 ありがとうございます。夢を叶えるまで、誰もが挫折やスランプを経験します。そんなときは、あえて寄り道をしたり、

別な道を経由したりしてみてください。その方が意外と良い答えが見つかることもあります。今まで、皆さんがやってきたことは決して無駄になりません。何か壁にぶつかったとき、今日のことを思い出してもらえると思います。

―対談では町長から、新しい門出を迎えた新成人にぜひ読んでほしい、2冊の本を紹介しました。

1冊目は「世界がもし100人の村だったら」



▲世界がもし100人の村だったら (マガジンハウス)

新成人が生まれた約20年前に発行されて以来、世界中で親しまれている大人向けの絵本です。

2冊目は「僕たちが何者でもなかった頃の話しよう」



▲僕たちが何者でもなかった頃の話しよう (文春新書)

一流と呼ばれる人たちも、自分たちと同じように悩み、壁にぶつかり、乗り越えている。これから何者かになっていく新成人にぜひ読んでほしい本です。

